

大人になりたいかと問われても、私は首を横に振る。なぜなら、心無い言動はもちろん、誰も傷つけていない言動まで批判するこの情報社会を恐れているからだ。そこでの少人数対大勢のやり取りを目にするたび、どうも息苦しさを感じてしまう。

そんな気持ちを変えた出来事を語るには、租税教室の存在は欠かせない。それは、社会は税で繋がっているという前向きで優しい考え方を教えてくれたからだ。無言で社会に存在し、敵対意識を持たれながらも人を支えてくれる税を想うと、それは優しい性格だと思わざるを得ない。このように、税にも関係する「支える」という言葉を思い浮かべると、真っ先に今年の元旦の出来事を思い出す。

能登半島地震。人々から笑顔を奪った地震。能登の形ある思い出が減ってしまった地震。この地震で被災した方の涙を見ると、誰でも心苦しくなるだろう。

そして、その涙を国も国民も見逃さなかった。租税教室を経て、能登半島地震と税との関係を調べると、国から復興のための税金が配分されていたことを知ったのだ。加えて、各地から多額の義援金が寄せられていることも分かった。これを頭に入れながら能登の姿を思い浮かべると、かつて訪れた輪島の朝市の景色が蘇ってきた。

商品を買うと、にっこり笑って「ありがとう。」「おまけで割引きな。」とおっしゃった優しい方々。次は、能登を越えて、「税金を復興のために使ってくれてありがとう。」と思ってくれている気がした。

石川の方々は、復興応援のための看板やCMを知っているだろう。これらからは、人々の温かい気持ちが十二分に伝わってくる。これを根拠として、社会の優しさの源は、税金とそれを納めている人々だと考えを変えた。この考えは、自分にはたくさんの味方がいるという、ほっとする気持ちを与えてくれる。

一方で、今日の社会には人の心を傷つける言葉や、能登半島地震でもあったようなフェイクニュースが絶えない。それは、自分の価値観や世界に留まっている、あるいは他人の姿が輝かしく見えて、妬んでしまうからではないだろうか。確かに、これらの気持ちはあって仕方がない。しかし、心の傷はなかなか癒えないものだ。この傷をこれ以上増やさないために、自分の味方を想像してみてほしい。税金で日本は繋がっていると考えれば、私と同じようにほっとできる人もいるだろう。そして、この気持ちが他者への感謝につながり、思いやることができると思う。

一人一人が人と税との役割について理解し、「おまけ」にそれらに感謝できたとき、この社会は明るい団体へと進化するだろう。これは、日本全体で叶えるから意味がある。そのため、まずは税を通して学んだ、社会の温かさをより発見していきたい。